

# 1 調査検討の目的について



## ○ 青森県スポーツ振興計画の策定

「あおもりスポーツ立県推進プラン」（平成12～21年度）

○「スポーツに親しみ、スポーツに強い青森県」の実現を目指し、様々な取組を展開

＝ 各種国際大会・全国大会の開催、各種大会での本県選手の活躍など、一定の成果

一方で

少子・高齢化による競技人口の減少、指導者不足、お家芸競技の低迷、日常生活において体を動かす機会の減少や子どもへの体力低下など、社会生活全体の活力維持を図る上で憂慮すべき問題が顕在化

資料2

○青森県スポーツ振興審議会提言「豊かなスポーツライフの実現のために」（平成20年4月）

○平成20年8月、スポーツ振興審議会に、次期青森県スポーツ振興計画について諮問

＝平成21年12月答申。本県が今後、重点的に取り組むべき方向性が示される。

『青森県スポーツ振興計画』の策定(平成22年3月)

## ○ 青森県スポーツ振興計画を踏まえた検討の方向性

### 『青森県スポーツ振興計画』

#### 位置づけ

- ▶ 今後の本県スポーツの振興に向けて、県が目指す基本的な方向性を示す。
- ▶ 県民の生涯にわたるスポーツライフの実現を目指す。
- ▶ 市町村、関係団体等が各種活動を展開する上で参考となる方策を示す。

#### 計画期間

- ▶ 平成22年度～平成27年度（6年間）

#### 目標

- ▶ 県民が生涯にわたり気軽にスポーツに親しむことができる環境づくりや、全国大会などで活躍できる選手の育成による本県の競技力の総合的な向上を進め、県民の豊かなスポーツライフの実現を目指す。

#### 重点項目

- ▶ 子どものスポーツ活動の推進
- ▶ 地域スポーツの推進
- ▶ ジュニア競技者の育成・強化



### 2011 熱戦再来 北東北総体 (開催期間7/28～8/20)

- これまで、各種選手強化対策を展開  
→ この流れを次のステップに！

これまでの成果を活かしながら、振興計画が目指す目標の達成や選手・指導者の育成に向け、基盤となる枠組みや具体的な取組をさらに充実・発展させる必要がある。

## ○ スポーツと地域振興・観光

### 『スポーツ立国戦略』（平成22年8月 文部科学省）

- スポーツを通じた交流は、地域の一体感や活力を醸成し、人間関係の希薄化等の問題を抱える地域社会の再生につながる。
- スポーツ振興によるスポーツ産業の広がりや、新たな需要と雇用を生み、我が国の経済成長に資するとともに、スポーツによる国民の心身の健康の保持増進は、医療・介護費抑制等の経済的効果を生む。

### 『スポーツ観光』（観光庁HPより）

- スポーツは感動を生み、人々の交流を呼び起こし、異なる国や地域間の相互理解を促進する。
- スポーツと観光は、非常に密接な関係にある。
- 我が国の魅力あるスポーツ資源を最大限に活用し、観光振興の起爆剤とする。

### スポーツによる交流人口の拡大（各地の取組から）

- 観る・・・野球、サッカーなどのプロスポーツや各種全国大会などの観戦 など
- する・・・東京マラソンなど各地で開催されるスポーツ大会への参加 など
- 支える・・・地域密着型スポーツチームの運営、ボランティアによる大会支援、キャンプ誘致 など



スポーツによる交流人口の拡大  
(地域振興)

スポーツのさらなる振興



スポーツによる地域振興やスポーツがもたらす経済効果等の視点も踏まえて、スポーツ振興のあり方・方策を考えていく必要がある。

## ○ 調査検討の目的について

育成・強化

これまでの成果を活かしながら、振興計画が目指す目標の達成や選手・指導者の育成に向け、基盤となる枠組みや具体的な取組をさらに充実・発展させる必要がある。

地域振興

スポーツによる地域振興やスポーツがもたらす経済効果等の視点も踏まえて、スポーツ振興のあり方・方策を考える必要がある。

環境整備

県有体育施設の状況を踏まえ、今後のスポーツ振興の充実に向けて必要となる環境を整備していく必要がある。

これらを踏まえ

青森県スポーツ振興基盤整備調査検討会議では、

本県のスポーツ振興基盤に係る諸課題・諸条件を整理し、今後の具体的な整備方策を検討する。



2つのワーキンググループ(選手・指導者育成WG、地域振興・体育施設WG)における議論を踏まえ、

**スポーツ振興基盤整備計画素案**

を取りまとめる。



教育長に提出

青森県教育委員会では、

いただいた素案をもとに、計画案をとりまとめ、パブリックコメントを経て、

**スポーツ振興基盤整備計画**

を策定し、施策に反映する。